

第6回美作市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成29年10月25日（水）午後3時～午後4時30分

2 場 所 美作市民センター 3F大研修室（美作市栄町35番地）

3 出席者（敬称略）

(1) 構成員

市長	萩原誠司
教育長	大川泰栄
教育委員（職務代理者）	福島信夫
教育委員	杉山知子
教育委員	佐々木勇
教育委員	須田多香子
教育委員	平田邦義

(2) 職員

教育委員会	教育次長	山名浩二
	教育総務課長	宮前聖
	学校教育課長	忠政勇之
	社会教育課長	船曳敬吾
	教育総務課総務係長	渡邊祥子
	教育総務課主任	綱澤知則
企画振興部	企画振興部長	池田義和
	スポーツ振興課長	平田幸春
保健福祉部	保健福祉部長	江見勉
	健康づくり推進課長	山下富貴子
総務部	秘書課長	春名利亮
	秘書課秘書係長	濱田宏治

4 議題及び議事概要 別紙のとおり

1 開 会

(事務局)

ただいまから、第 6 回美作市総合教育会議を開催いたします。開催にあたり、萩原市長からご挨拶を申し上げます。

2 萩原市長あいさつ

(萩原市長)

このところ災害が続いた。たいしたことは無かったが、子どもたちの安全を考えると不安な状況もあった。台風 18 号絡みの、その少し前の落石問題、上山地区では石が飛び出して民家に被害が出たりしました。現在、行政懇談会を行っているが、地域からの関心として通学路の安全確保の意見が出ている。子どもたちの環境が日々変わる中で、様々な教育策を私共としても日々改善をしていく努力をしていく所存。

3 教育長あいさつ

(大川教育長)

萩原市長からもあったが、教育施設の被害確認を先ほど教育委員会でも報告した。勝田中学校の屋根の一部、作東中学校では国旗掲揚塔がぼっきり折れる被害があったが、修理は十分、すぐにできる状況。本日は、7 月に萩原市長からの指摘されたことを元に、手直した部分も含めて意見交換会ができればと思う。

4 協議事項

(1) 第 5 回美作市総合教育会議における指摘事項による美作市教育大綱の修正について

(春名秘書課長)

以後の進行は、規定により、萩原市長にお願いします。

(萩原市長)

協議事項(1)第 5 回美作市総合教育会議における指摘事項による美作市教育大綱の修正について(報告)、となっているが、なぜか。

(大川教育長)

赤字の部分を報告ということである。

(萩原市長)

協議をしていただき、了承していただいた上で決める。したがって、次第(1)が(報告)となっているのはおかしい。今の段階で報告は有り得ない。

(大川教育長)

承知した。

(春名秘書課長)

失礼いたしました。それでは、(報告)を(案)に修正していただくようお願いする。それでは、教育委員会からの(案)の説明をお願いします。

(山名教育次長)

教育委員会の部局につきましては、先ほど午後 1 時からの教育委員会議の中で、話をさせていただいております。必要性的については、すべて報告させていただき、その場で了承を得ました。大綱の中身についてはご存知のとおりであるため、説明は差し控えさせていただきます。

(萩原市長)

では、こちらから順次質問させていただく。

赤字の推計（小中学校児童生徒数推移予測）については何故、書いているのか。
（忠政学校教育課長）

毎年、教職員課で推計している数字。今後、生徒数が減っていくことが予想されるため、それに伴う学校の規模も小さくなっていくことが考えられる。

（萩原市長）

転入については意味不明である。私が尋ねているのは、何のために書いているのか、目的は。

（大川教育長）

1 ページ目の下から5行目、“多様な学習活動が可能となるようにするためにもある程度の児童・生徒数が必要”とあることから、その生徒数を増やさなければいけないという意味で、その根拠のひとつとして、現状では少しずつ減っていることを書いている。

（萩原市長）

平成30年については、おおよそ見込みが立つのは理解できるが、これを書くなれば、最近の転校の状況などを書くなど、もう少し具体的に記述する方が余程良い。当たるも八卦、のような書く必要は全く無い。

今年一年間の転入はどうなっているのか。自然増減、社会増減が学校でもあるはずだが。

（大川教育長）

数字はあるが、本日資料を持ってはいない。転入というのは市外からはほとんど無かった。

（萩原市長）

転入の〔聴取不能〕がわかるはず。それがわかるのが学校規模のいいところであれば、その数値、背景、動きを把握し、そういったことを、きちんと出していなければだめである。転入動機として、勝田東については、ユニバーサルデザインの教育の良さが効いているという話もきいた。そうであれば、教育内容と上昇気流であるのか、下降気流であるのか、なおのこと重要性が高いのでは。それから、勝田から美作、英田から美作への転入の動きなど部活を理由に転校したケースも。学校で何をどんなことしているか、させているか、できるか、それは生徒数の増減、転入に絡んでくると、私は思う。勝田東についても、その他、西栗倉で話を聞いてみると、圧倒的に自信を持っている。「うちは良い学校。転入が増えている。」と答えられる状況。

（大川教育長）

西栗倉は増えている。

（萩原市長）

であれば、そこを目指すべきではないのか。

（大川教育長）

目指してはいます。

（萩原市長）

目指しているなら、こういった書き方はしない。なるわけがない。

（大川教育長）

書いたらゼロになりますが。

（萩原市長）

では、何故、転出しているのか。

（大川教育長）

転出は家庭の事情である。

(萩原市長)

家庭の事情と言うが、転出は家庭の事情と、学校教育と関連する可能性がある。

(大川教育長)

今は家庭です。

(萩原市長)

そこのところが教育委員会としての目標になるべきなので、こういった書き方をされると、一体教育委員会は何を考えているんだということになるので、目的は何かを尋ねた。

(忠政課長)

そう言われるとそうである。数値だけ見て何も思わなかった。

もし、文面とグラフを一致させるのであれば、例えば、一学期あたりの人数を、例えば小学校では平成何年度が何人減少しているなどしていれば、これでは集団教育が難しくなっていることを表現できる。

(萩原市長)

それはそれでいいが、私の言っている意味はもう一步踏み込んだ分析として、学校別にどうなんだということ。小学校で言えば、北小の児童数は増えているのではないか。

(大川教育長)

現状維持です。

(萩原市長)

あとはどうですか

(大川教育長)

あとは減っています。

(萩原市長)

勝田東は20から24に2割増の見込み、目標と聞いている。

もちろん、自然動態に依存するのは一番大きいのだが、そうとばかりは言えない。

西栗倉のように、学校が人口動態の吸引力となっている。だからこの部分は強い違和感がある。

(大川教育長)

転移という形、地域ごとの学校増は数値を出すことはできる。

(萩原市長)

転入、転出状況を調べてもらいたい。

就学前教育について、ぜひ記載してほしいのは、湯郷は認定こども園に移行する。そのことはどういう意味を持っているのか、ということ。市内第1号となる。民間転換は別として、子育て支援センターを併設していること、それは今後、一体どうしていくのかという方針が一応あるわけなので、それについてここに記載していないのは、極めておかしい。

ここの施策の中で、現に認定こども園をやるわけである。それが出てこないのは、どういうことか。何故、書かなかったのか。

(宮前教育総務課長)

<施策2>就学前教育の充実・向上の中での取り組みの中にはある。

文面にまで、書いてはいない。

(萩原市長)

それでは駄目である。

認定子ども園の施策については、せっかくやるわけである。熱意を込めてやるべ

き施策である。

(大川教育長)

〈施策2〉就学前教育の充実・向上の本文の中に入れて、今年は“認定こども園”について記載することとする。

(萩原市長)

その辺については、教育委員会とはずれののかもしれないが、教育委員会の先生方にもしっかりと情報提供をして、議論をして、あるいは理解し、しっかりと後押しをしてもらうべき。良い事をやっているわけであるので。この部分に反映があるべき。書くことによって、園長以下に気合を入れることにもなる。

それから、ぼやっと発達障害と言っているが、発達障害にも区分がある。スピーチ、会話にならない障害など、STを入れたことなどの現状については。

(大川教育長)

幼児の言葉のケース、定期的に通っている子が7人。記録を読むと、効果は少しずつあるようだ。

(萩原市長)

そのあたりが一つの特徴的な施策となっている。今年、STを入れて本格的にやるかどうか、今年判断を迫られる年。言葉の教室をやるかどうか。

(大川教育長)

他の市町村には無い取り組み。幼児期に特化をして、全額市費で、STを入れて取り組んでいる。

(萩原市長)

PT、OT、ST等ある。

(大川教育長)

幼児語を直すものもあるが、言語そのものの習得が弱い子どもに対しての助けとなる。

(萩原市長)

発達障害における、言語というのは発音だけではない、その人にとっての社会生活におけるコミュニケーションの手法は何か等、殴るのか、蹴るのか、泣くのか、領域を大きくしていくことが社会化ということ。そういったことを念頭にトレーニングしていっているはずである。そういうところはぜひ記載したら良いと思う。

次に、教育支援員の配置数の人数の部分だが、教育支援員については、ひとくくりではなく内容がすべて違うはずである。STも教育支援の一部であるのか。

(大川教育長)

広い意味ではそうである。

(萩原市長)

何のことを教育支援と言っているのか、そこをしっかりと議論しておいて欲しい。

(大川教育長)

特別支援教育の支援員である。

(萩原市長)

そうすると、どういったスキルを持っているひとが何人いて、どこに、どう増やすのか、に焦点が行くはず。それが計画である。独自性、その街の状況や背景を的確に捉えた判断のはずだが。

(萩原市長)

英語教育については皆さんの考えはどうか。

日本語、母国語に対する依存、自分の社会生活において大切にしよう。というコミュニケーションの窓口について、既に問題が生じている状況であるが。英語の方

が楽というケースはレアである。

国はこのような文面のことは言っているが。

(大川教育長)

就学前の保育園、幼稚園に2ヶ月に1回程度、ATLを派遣しているが、子どもたちは馴染みがないため初めは怖がる。英語教育を通して距離を縮めていく、グローバル化を進めていく。

日本人は英語を怖がってしゃべられないので。

(萩原市長)

幼児期の段階で、母国語、多言語を通じて、言葉を相対化して体験することは大変重要。

(大川教育長)

和気町では成果が出ているようだ。

(萩原市長)

その通りである。和気町は成績が上がっている。和気町も転入増傾向もある。町長に聞くと、その要因は教育だと言い切っている。

(大川教育長)

岡山に近いからでは。

(萩原市長)

岡山に近い場所はたくさんある。教育も一因となっている。

英語がうまく言っているかはわからないが、教育には力を入れている。

英語のここへ記載することについて否定するつもりはないが、他にも書くポイントがあるのではないかということになってきた。

(大川教育長)

1月にここへ記載を萩原市長が言及した。

(萩原市長)

ところが、その後の状況を観ていると、STからの話の流れがあるため、バランスにおいて、他にも書くべきことがあるのではないかと。書くのはいいのだが。

(大川教育長)

ALTを手厚く配置するとか。今年増やす予定、できればもう1人増やしたい。英語というものを。

(佐々木)

予算があればALTの活用もあるかもしれないが、ネイティブの活用もしてはどうか。勝田、西栗倉、東栗倉にも居る。

(萩原市長)

若干、話は戻るが、スクリーニング検査についてはどう記載するか。ある程度の発見があった。家庭教育のところへ記載するのはどうか。家庭教育に影響を受けているという結果として解釈する方がよいであろう。就学前教育が悪かったということでは無い方がよいと思う。実態の数字を書くとは皆ビックリする。現状把握の観点もあるため3歳児からスクリーニング検査をやっている。

そうすると、やや保健福祉も絡むため、親御さんたちの勉強会をやっているが、ああいっただことも拡充しましょう、ということになる。

(萩原市長)

スポーツ医療看護専門学校についての誘致は終わっている。「目指します」の時点修正。目指す段階は終わった。開校は決定している。

(大川教育長)

通信制高校について、ここに一切記載が無いので、なかなか、学校に行きにくい

子どもたちも週に 2 回、あるいは午後のみなど、行きやすい学校ということについて書いても良い。

(萩原市長)

書いておいて良いと思う。

(池田企画振興部長)

わかりました。

(萩原市長)

良いと思う。それから、林野高校の件も、学区特例の設定について、“関係県教育委員会に働き掛けを行っていきます。”の部分は既に終わっているはずだ。

(大川教育長)

結論が出ました。5%の枠内でなら大丈夫である。

(萩原市長)

これも時点修正が出来ていない。時点修正について担当課長は、あまりならした仕事をしないように。

(春名秘書課長)

平成 29 年度版はいつごろまでの訂正で良いか。

(萩原市長)

今年中にやらないと、30 年版になる。

(春名秘書課長)

29 年 12 月までに、訂正版を文書回覧するというので良いか。

(萩原市長)

良い。

(大川教育長)

12 月に再度会議するということか。

(春名秘書課長)

文書回覧ということである。

(大川教育長)

他にも言い回しなど文書表現も含めて。細かい訂正部分のご意見をいただいているので修正する。

(春名秘書課長)

では、その他、訂正があれば、早めに教育委員会へ情報提供をお願いする。

これにて、協議事項(1)の大綱の修正についてはこれにて終了とし、意見交換へと進める。

(2) 意見交換

それぞれの地域で感じたこと等について意見交換

5 閉会

(春名秘書課長)

これを持ちまして、第 6 回美作市教育総合会議を終了といたします。